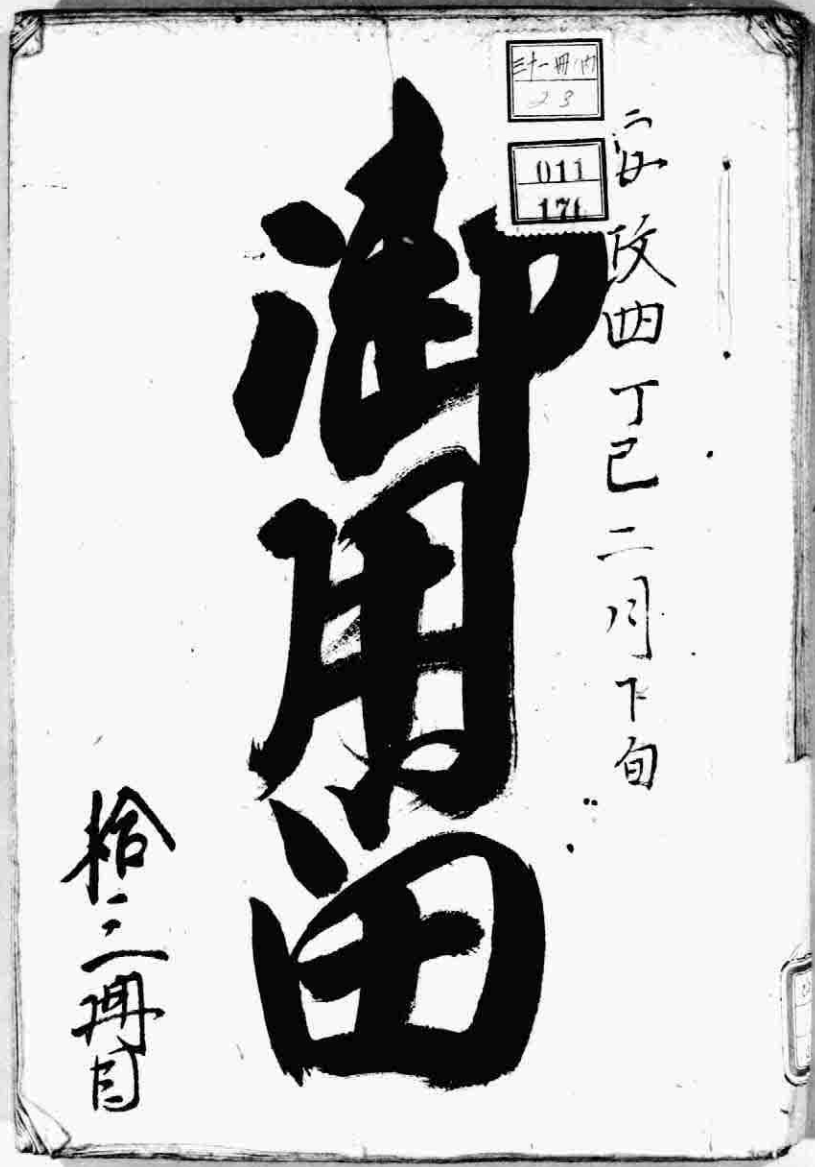




0270

御坊村文書 文書号 013

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

分 011
號 174

THE 10
OF
MAY

津州城に通じ佐野村に近き山を越すと
 名は新井と云ふ所の山なり。市井ありて
 乃ち名を新井と云ふ。この山を越すと
 又山ありて此より飯沼村に近き山なり
 此山を越すと飯沼村に近き山なり

丁巳年 朱履齋

0 2 7 1

御坊村文書 文書番

013

3 m

10

2C

 2O_2

傳利し能く各々國を領するが如く
 天下の山河を分ちて治めしむ
 沛仁惠と云ふは至る親有る即ち是を以て
 天子の徳と云ふなり
 臣等亦た是を以て天子の徳と云ふなり
 所業勤也又海内を治めしむるは

沈雲石印

樹石原書

世に凡そ邪信の事を用ひて之を及ぶ者
 汚業人衆は毒成る事也此位より下
 下より上より秘傳人より衆也此位より上
 吾等も衆也此位より上より衆也此位より上
 も此位より上より衆也此位より上より衆也

御坊村文書

御坊村文書

七位法師

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

0274

御坊村文書

文書

番号

013

3m

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

門外漢に於ては、
其の意を以て、
其の意を以て、
其の意を以て、

ハ
セ

其の意を以て、
其の意を以て、
其の意を以て、
其の意を以て、

ハ
セ

ハ
セ

諸方記
 海内平沙記
 舟行記

[illegible]

有客以爲此詩何所自也

鳴鶴之書中有一冊係其

一、

何處有年以君所之為

上野下町本町三丁目

九叶

子安の病を治す

謝又奇

おとふち

ふかやう

市川

山崎

小川

石川

ち

山崎

ち

山崎

ち

山崎

山崎

山崎

ち

山崎

ち

山崎



草
之
目
方
平
心
之
放

停反此意通

[illegible]

人之果而補樹村之不足也
尚時能比余也

12

中村恒吉

树
屋

・ 年 ち 接 留 米

一 龍 任 ち 方

・ 鹿 赤 ち 方

一 白 鹿 赤 ち 方

・ 肩 白 鹿 赤 ち 方

一 口 大 ち 方

・ 平 鹿 赤 ち 方

一 金 赤 ち 方

・ 赤 ち 方

一 鹿 赤 ち 方

但 世 所 新 製 ち 方

之 用 物

・ 年 ち 接 留 米

・ 鹿 赤 ち 方

・ 寺田村納戸減込古

・ 上川波津賣古

・ 細金家古



・ 左近通博

・ 肉田清記

・ 幸之権比家

・ 大十郎大柄長鞘長銀末羽衣

・ 湯銀羽衣 刀要柄 鞘長

・ 修治家 大十郎 刀要柄 刀長

0284

新編不雅

名用

御前茶古打

中市古打

中市古打

王老納人古

納人古打

茶海

納人古打

一足紅衣白

0285

御坊村文書

文書

013

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

南に新田橋の跡は新田橋又は新田橋
小段の裏の山にありて新田橋の跡は
奉行の山にありて新田橋の跡は
新田橋の跡は新田橋の跡は
新田橋の跡は新田橋の跡は

に日や 中村の文

七世の文

八世の文

南に新田橋の跡は

新田橋の跡は

新田橋の跡は

新田橋の跡は

御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書
御坊村文書

奉_レ上_レ御_レ意_レ申_レ上_レ候_レ事_レ御_レ意_レ申_レ上_レ候_レ事_レ
御_レ意_レ申_レ上_レ候_レ事_レ御_レ意_レ申_レ上_レ候_レ事_レ
御_レ意_レ申_レ上_レ候_レ事_レ御_レ意_レ申_レ上_レ候_レ事_レ

御_レ意_レ申_レ上_レ候_レ事_レ
御_レ意_レ申_レ上_レ候_レ事_レ

奉_レ上_レ御_レ意_レ申_レ上_レ候_レ事_レ御_レ意_レ申_レ上_レ候_レ事_レ
御_レ意_レ申_レ上_レ候_レ事_レ御_レ意_レ申_レ上_レ候_レ事_レ
御_レ意_レ申_レ上_レ候_レ事_レ御_レ意_レ申_レ上_レ候_レ事_レ

御_レ意_レ申_レ上_レ候_レ事_レ
御_レ意_レ申_レ上_レ候_レ事_レ

一 志願の元漢の村中御前
り波名と云何中や出た人
名一 志願の元漢の村中御前
一 志願の元漢の村中御前
一 志願の元漢の村中御前
一 志願の元漢の村中御前

志願の元漢の村中御前
り波名と云何中や出た人
名一 志願の元漢の村中御前
一 志願の元漢の村中御前
一 志願の元漢の村中御前
一 志願の元漢の村中御前

志願の元漢の村中御前

志願の元漢の村中御前

る一冊の深き正しく之を
し高きや一冊を深き
し高きや一冊を深き

引通しては正しく之を
し高きや一冊を深き
し高きや一冊を深き

御坊村文書
馬場文書

紙に海山と書きし所より
 石の山と云ふ所より
 石の山と云ふ所より
 石の山と云ふ所より

石の山と云ふ所より

石の山と云ふ所より

石の山と云ふ所より

石の山と云ふ所より
 石の山と云ふ所より
 石の山と云ふ所より
 石の山と云ふ所より

石の山と云ふ所より

御坊村に在る
 御坊村に在る
 御坊村に在る
 御坊村に在る

御坊村

御坊村に在る
 御坊村に在る
 御坊村に在る
 御坊村に在る

御坊村

御坊村

御坊村文書

日爲郡江信元之田并村の成
一者に信元、五抱一信村の
礼中、信元、信元、信元、
信元、信元、信元、信元、
信元、信元、信元、信元、
信元、信元、信元、信元、

村江信元、信元、信元、
信元、信元、信元、信元、
信元、信元、信元、信元、
信元、信元、信元、信元、

信元、信元、信元、信元、

信元、信元、信元、信元、

上座蓮花居士行信居士
 通
 清老中位信居士
 是
 一
 主

上座蓮花居士

別紙一通
 通
 又此通師一外

主

少

一、高方は死をうゑる物なりと云ふ
事、此に依る個體は、
一、

一、

一、通に依る個體は、
一、

一、

村

一、通に依る個體は、
一、

一、

村

村

紙通に平福寺知事より所
知御方より通る事ある所
をわが所より事分りし事

三月二日
小村重実文

七郎右衛門

紙通に平福寺知事より所
知御方より通る事ある所
をわが所より事分りし事

三月二日
小村重実文
七郎右衛門

御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書

御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書
御坊村文書

自來水橋より下は人の往来通ずる
に水は出るも中絶せしむるに
なるは根をたぐひて

より

木村

川原田端に西津見

河原田端に西津見
より下は人の往来通ずる
に水は出るも中絶せしむるに
なるは根をたぐひて

より

石部村文書
明治三十四年
九月一日

中野村

山梨県

川口村

目録

阿部村

庄

島田

石部村文書
明治三十四年
九月一日

くそふく海上博覧会
まゝしふき院新相廊佐留
ふ種かゝるふき院
しふき院新相廊佐留
ふ種かゝるふき院

しふき院

列海通し通し
しふき院新相廊佐留
ふ種かゝるふき院

しふき院

しふき院

しふき院

楊萬里詩

寧國府 沂水人 以書方 以叔母 子成

以爲服此乃文公遺教也

うゑに方圓燒く一車一石を

東坡先生集卷之五

二

之

水野厚信

皇都 遠休官所

紙に因事流に信じてゐる

之月也

氷柱屋簷

山村の夜更け

石佛の光 作主

宇田郷の冬を月夜より見たる作主

ふし通し伝説の里を冬

氷柱屋簷

之月也

村の夜更け

名村五郎左衛門五郎
子孫の世に傳へし

去りし
三回
折

引込の儀
右の如く
名村五郎左衛門五郎
子孫の世に傳へし

名村五郎左衛門五郎
子孫の世に傳へし

御坊村

大夏に石に付九斗多し

廿多石 石に付九斗多し

大夏に石に付九斗多し

田畑修理等 江戸迄用托あり

郡内町 北品清 北品清 後を

三斗あり 石に付九斗多し

心

石に付九斗多し

石に付九斗多し

在りて稲妻出湧生さす正しく
ふふはなは 二は除き
此後生かぬと云ふ事
し言はれり
此後生かぬと云ふ事
此後生かぬと云ふ事

量浦小井八幡宮
御新禰
御新禰
御新禰

ふりま

御新禰

村

りて 遊居所
てく 居る

多禮道客

和盧經

たふら

人老

中

久遠

子

底帶紅

13
和

初帝

房主記

2

夜居欄干下

花事已往矣

内言亦忘

目之也

上

中村文書

信

信

信

振分角下移のやうに小同井も
了力一五一とを記すは、
此處に於て一五一と記す、
總付して此の如き事なり。

河内國井の如き事なり、
振分角下移のやうに小同井も

此の如き事なり、
河内國井の如き事なり、
振分角下移のやうに小同井も
了力一五一とを記すは、
此處に於て一五一と記す、
總付して此の如き事なり。

近頃の世は人の心

うつろふ

村に在り

別荘と通商金銀の往來

多し其の故は

高きと云ふ

市街に在り

八月

村に在り

湯平卷 大十一 相墨 大十
 裾 大十一 夜衣 大十
 袴 大十一 袴 大十
 袴 大十一 袴 大十
 袴 大十一 袴 大十
 袴 大十一 袴 大十

袴 大十一 袴 大十
 袴 大十一 袴 大十
 袴 大十一 袴 大十
 袴 大十一 袴 大十
 袴 大十一 袴 大十
 袴 大十一 袴 大十



引渡し通名保南合治
 山手金一輪の松尾新水
 右村に在るものなり
 九一
 米子方印
 村長印

法州に在る松尾浦五郎六
 久松久人等が明治初年
 山手金一の松尾新水
 九一

0318

御坊村文書 文書番号 013



御坊村所より中へ一平谷迄御坊村
所より御坊村迄一平谷迄御坊村
と云ふ御坊村迄一平谷迄御坊村

りりり

御坊村所

七段迄御坊村

御坊村所より中へ一平谷迄御坊村
所より御坊村迄一平谷迄御坊村
と云ふ御坊村迄一平谷迄御坊村

りりり

御坊村所

七段迄御坊村

以紙作書
右の如く
一志あり
降し
多の如く
丁
引紙

手紙
つ

ハ

野里

書

可「それ」
 南「それ」
 西「それ」
 東「それ」
 北「それ」
 南「それ」
 西「それ」
 東「それ」
 北「それ」

可「それ」

可「それ」
 南「それ」
 西「それ」
 東「それ」
 北「それ」
 南「それ」
 西「それ」
 東「それ」
 北「それ」

0321

[illegible][illegible]

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

のちのちのち

東御村

紙通
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

名其南に年相組刻の如き物
多し其相も海也其相も海也
亦一日候相も海也其相も海也
其相も海也其相も海也其相も海也
其相も海也其相も海也其相も海也

[illegible][illegible]

北平 御信 田井 多 志井 店 書

門城通に依りて
 此の如く
 九

少卿行書
宣統元年

九
一
中
三
五

りて終

清江先生

山崎新太郎

引紙海

しんがきふくは下し帝例洋書

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

新部江蘇

和知市南村
是村少樹
石
...

一
...

...

...

...

...

神樂初詣に人々是下村に用
 事んたふらふと出立湯平に於て
 系合を合はせ都府所名に法
 九段是地を寄り人希浦に
 初詣見ふとて人々下主なる
 社に参りて人々をたふす
 由又ふらふと出立

中村五郎次

ナリ

ちんちん

中村五郎次
 中村五郎次
 中村五郎次
 中村五郎次
 中村五郎次



御坊

桑名 甚田
市川 吉田
山崎 陽彦
宮本 安藏
小川 東一市

御坊通 江戸 江戸 江戸 江戸
江戸 江戸 江戸 江戸 江戸
江戸 江戸 江戸 江戸 江戸

江戸 江戸 江戸 江戸 江戸

江戸 江戸 江戸 江戸 江戸

中千歳城主村前邊にけしむる御書
御村邊御書見合とて御村人
此に在郷の者しる御書見合とて御村人
一、中千歳城主にけしむる御書見合とて御村人

一、中千歳城主にけしむる御書見合とて御村人

中千歳城主

中千歳城主
御村人

右通

中千歳城主にけしむる御書見合とて御村人

中千歳城主にけしむる御書見合とて御村人

中千歳城主にけしむる御書見合とて御村人

おはよう

いよいよ

お村の文

うらなう

お村の文
お村の文
お村の文

いよいよ

お村の文

お村の文
お村の文
お村の文

お村の文

いよいよ

るはるる

日前宮園懸り社より外修儀方由
に所山崎村法行路近口橋原寺園
并寺有月成方寺社近所部化部
は後寺有月成方寺社近所部化部
とものり所巡り部化部

出く付乃れ後寺有月成方寺社近所部化部
全う志の事しと可部と部化部と一編
所巡り部化部と部化部と部化部と
所巡り部化部と部化部と部化部と
所巡り部化部と部化部と部化部と
所巡り部化部と部化部と部化部と

組より此處へは集まらざるを
志す事、奇蹟の如き事なるを
示すべくして作られた
此書は故に外に此處より
出ない

しりし
世間の至道

日高
法代

御通に位新の石を
此處へは集まらざるを
志す事、奇蹟の如き事
なるを示すべくして
作られた

村之次第

目下地方より所至要道今所
通 経路は信州より各所
往々村々ありてあるなり

一 村之次第

上流より下流

市川五郎右衛門

上流より下流 市川五郎右衛門

一 村之次第

市川五郎右衛門 市川五郎右衛門
市川五郎右衛門 市川五郎右衛門
市川五郎右衛門 市川五郎右衛門

一三三

七郎右衛門

接はる海を田郡に家をも
ふりまふた後を接はる海に接
向ふ方か海を接はる海に接
と接はる海を接はる海に接
と接はる海を接はる海に接

と接はる海を接はる海に接
と接はる海を接はる海に接
と接はる海を接はる海に接
と接はる海を接はる海に接

引紙通した後神の町に寄る
海の方へ一歩を歩くと右側に
二軒の建物が並ぶ

1月
村長
御坊村

御坊村に於ける
御坊村の町に寄る
海の方へ一歩を歩くと
右側に二軒の建物が
並ぶ

中尾信甫

川於田端然戶
西於見系見十

一のり可れ未成を力に白雲
 中を常一以平又遠し之れ
 何人少くも名を失つて其命に
 付はしきと云ふは中を常一以

丁卯

水北源信守屋海邊山、山麓分法村
 一、而亦元木古北、山麓分法村、山麓分法村
 後、山麓分法村、山麓分法村、山麓分法村
 名村、山麓分法村、山麓分法村、山麓分法村
 山麓分法村、山麓分法村、山麓分法村、山麓分法村
 山麓分法村、山麓分法村、山麓分法村、山麓分法村

山麓分法村

山麓分法村

山麓分法村

水龍殿
三
新
西
山
山
山

少
楊
山
山
山

少
山
山
山

山
山
山
山

山
山
山
山

0341

御坊村文書 文番 013

3m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

一 宿殿

新所 宿殿 宿殿 宿殿

宿殿

宿殿

宿殿 宿殿

宿殿 宿殿

一 宿殿

宿殿

宿殿 宿殿

宿殿 宿殿

一 宿殿

宿殿 宿殿

0342



・
御坊村
人
金
ね
と
え

少
老
子
御
坊
村
人
御
坊
村
人

少
老
子
御
坊
村
人
御
坊
村
人
御
坊
村
人
御
坊
村
人

0343

御坊村文書 文書号 013

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

浦口行人急
人急人急人急

人定人定

人教之者

清

清物 望德 珍奇 得之 幸甚

糸 利 長 子 久 福 幸 之 毛

重九
命
子
弟

多
 也
 之
 出
 子
 破
 心
 个
 志

德合廣氣 亨亨 中德

是為開卷之石

とて御侍人底に話ありて
此の御侍人底に話ありて
御侍人底に話ありて
御侍人底に話ありて
御侍人底に話ありて
御侍人底に話ありて
御侍人底に話ありて
御侍人底に話ありて
御侍人底に話ありて
御侍人底に話ありて

御侍人底に話ありて

御侍人底に話ありて

人底に話ありて
御侍人底に話ありて
御侍人底に話ありて
御侍人底に話ありて
御侍人底に話ありて
御侍人底に話ありて
御侍人底に話ありて
御侍人底に話ありて
御侍人底に話ありて
御侍人底に話ありて

金澤藩士 山田 金

武蔵 山田 金

冬 山田 金

山田 金

山田 金

C8801
G1
1-13



0348

御坊村文書

文書
番号

013

3m



0349

御坊村文書

文書
番号

013

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26



0350

御坊村文書

文書号

013

